

令和7年度第2回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和7年度第2回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日 時

令和8年3月2日（月） 13時30分～15時30分

2 場 所

青森県立郷土館 小ホール

3 案 件

- (1) 議長及び副議長の選任
- (2) 令和7年度事業実施状況及び利用状況について
- (3) 令和8年度事業実施計画（案について）
- (4) 博物館評価について
- (5) その他（報告：青森県立郷土館整備検討会議について）

4 委員からの主な意見

- 出前授業について、私も小学校で子どもたちとの活動を10年ほど続けているが、学校としては多感な時期にいろんな経験と機会を与えたいと思う反面、なかなか時間を作ることが難しいと聞く。
- 中学校は学校行事が多く、外部の方を取り込んでの活動までなかなか手が届かないのが現状である。
- 県立郷土館で教育普及活動のプログラムのチラシを年度の早い時期に配るようになってとても助かっている。小学校も授業時間数はぎりぎり、指導要領に定められた内容を計画的に進めているので、出前事業の内容が教科書のこのあたりの単元に合致しているといったことが分かりやすく広報されれば、出前事業を頼む判断がスムーズにできると思う。
- 県立高校全校で、生徒が地域の課題を見出し課題解決方法を考える「あおもり創造学」に取り組んでいる。そういった中でテーマに合った内容の出前授業をしてもらえたらいいと思う。一生懸命なのに、地域的に外部のものに触れる機会が少ない生徒たちもいるので、出向いて色々教えてもらえるならありがたい。
- SNS等の活用について、実際どれくらい効果があるのか検証するとよいと思う。
- サテライト展は観覧者数がとても多かったが、県立美術館の観覧者が自然に流れてきたのか、チラシ等の広報を見てきたのか、流入経路の検証もよいと思う。

- ホームページのアクセス数は、令和5年度比では3割増しと増加傾向にあるとのことだが、フォロワー数も見ていってはどうか。
- 県立郷土館のSNS更新を楽しみにチェックしているが、キョドチャンネルなどのショート動画が少ないと思っていた。SNSは更新しないと表示されにくくなるので、せめて月に1度くらいアップすれば、ファンもうれしいし、優先的に表示されるようになるので、もう少し更新を増やしてほしい。
- キョドチャンネルを見ているが、インスタやYouTubeの概要欄にあるホームページへとぶリンクがハイパーリンクになっていないため、とばなくなっている。きちんとリンクを直すだけでも閲覧数が伸びると思う。
- 八戸の参勤交代の研究があるが、参勤交代は小学校5，6年で勉強するので、例えば「青森 参勤交代」で検索したら、「県立郷土館に資料があるよ」みたいなショート動画などがあがってくれば、教員もそこから調べることができる。また、小学校6年生の教科書の進度に時期を合わせて、「こんな歴史の資料があるよ、ぜひ来てね」みたいな動画をアップしていけば更新頻度もあがるし、イベントに足を運ぶことにも繋がるので、ぜひ検討してもらいたいと思う。
- 小学校6年生向けとか、青森歴史とか、ハッシュタグをつけるとよい。
インスタグラムのリンクにもとばないのがあった。コメント欄にリンクのURLを貼ってもとばないので、画像の方に貼ってタップしてとぶようにする必要がある。方法がわからない時など、力になるので相談してほしい。
- 今年度の郷土館をほめたいと思う。サテライト展の石展は、総合博物館らしい展示で非常に良かった。だから人も入ったのだと思う。ただ、青森県で一番大きい歴史的石像物である、弘前城の石垣の石の展示もあれば、もっと人が来たかもしれないと思った。また、特別移動博物館もものすごくいいことだと思うので、今後も続けていただきたい。
- サテライト展の「石」はいいテーマだったと思う。こどもたちにとってすごく身近なので興味を持ったのではないか。知らない興味も持たないので、親子で行くには、こどもだけでなく親にも身近に感じられるテーマであることがいいと思った。
- 調査研究において、特に考古や民俗の分野で、例えば文献の消失であるとか、早くしないと間に合わないという状況があると思う。
私も地域の人や小学生と一緒に自然環境の保全を行っているが、今の時代のやり方では長続きしないときに、昔どういうふうに行っていたとか、今は廃れてしまったがこういう場所があったとかが文献で出てきたりすると、それが長続きの

スタートになることがある。古い情報だったり歴史だったり、昔ここがどういう場所だったのかということが記録として残っているのは地域として大事なことだが、廃れてしまったことを新たに立ち上げてみる時にガイドが乏しいと思っていた。どうしても情報はすぐファイル化して行って紙ベースのものはどんどん廃れてしまうが、紙ベースの方がすごく残ったり、信頼性が高かったりする。そういったことを踏まえて応援したい。

- 上北鉦山の研究があるが、親がお世話になった方に上北鉦山の関係者が何人もいて話を聞いていたので懐かしいのと興味があるのとで、聞き取り調査できる方がどれだけ残っているのか、高齢で亡くなられている方も多いと思い、心配になった。
- この協議会の委員から何人か青森県立郷土館整備検討会議にも携わっていて、自分もその一人として言うと、個人的には県立博物館の場所はここではだめだとこの協議会で何回も言ってきたので、同会議の報告書の内容については非常にうれしく思っている。報告書の一番の肝は、博物館側の目線ではなく利用者側の目線をどういう形で報告書に盛り込むかであったと思う。
- 青森県立郷土館整備検討会議報告書には、インバウンドの方、観光客の方が一番最初に訪れる場所であってほしいということが書かれていて、非常にいい報告書だと思う。あとは名称はどうなるのだろうと思っている。
- 自然領域のタイプ標本の数が多いことは博物館の価値のひとつと考えるが、遺伝子解析が盛んになって、青森県は、生き物が奥羽山脈をはさんで太平洋側と日本海側で進化しながらあがってきたちょうど接点となることがわかってきた。生物史の中では貴重な場所で、サンプル等が採取できると思うので、ぜひそれらが収蔵できるように県立博物館の整備をお願いしたい。